

小松空港ターミナルビル基本構想(案)に関する意見募集の結果について

意見募集期間	令和8年1月26日(月)～令和8年2月13日(金)
回答人数	1名
回答件数	1件

ご意見の概要	左記に対する考え方
「日本海側の拠点空港」の実現及び、目標ケースである「2050年度旅客数186万人」の達成には、空港を単なる通過点ではなく、広域から人を惹きつける「目的地」へと進化させることが不可欠です。民間活力導入の事業性を最大化し、持続可能な運営を実現するため、以下を提案します。 ○2次交通アクセスの抜本的強化 ・老朽化した安宅PAを航空プラザ付近へ移転・改称(小松空港PA)し、金沢駅-空港間を30分以内、福井駅-空港間を45分以内で結ぶ導線を構築する。空港ターミナルを高速PAの物販・飲食施設として一体的に運用できるよう駐車スペースをターミナル至近に整備する。駐車スペースの確保が困難な場合は、ETC2.0を活用した一時退出・立ち寄り施設として運用する。 ・自動運転バスを新幹線接続専用とし、富山方面からのアクセスを1時間以内とすることで、北陸3件全体の需要を集約し、拠点空港としての投資効率を高める。 ○航空プラザの移転・統合 ・航空プラザについて、ターミナルビル内へ移転、あるいは合築による一体整備をし、実機展示を核とした商業・体験施設を空港内に取り込むことで、空港自体を「目的地」化する。 ○戦略的な施設整備と店舗構成 ・雪国における悪天候時の快適性を確保するため、小型機用ボーディングブリッジを整備する。 ・北陸3県の食の「キラコンテンツ」を誘致し、北陸全体の玄関口としての魅力を高める。 ・外国人需要の高いアミューズメントや、滑走路を一望できるビューダイニング、高単価なワーキングスペースを整備し、滞在中の消費額を最大化させる。 本提案は、公共投資を呼び水として民間の創意工夫を最大限に引き出し、小松空港の資産価値と事業採算性を高めるものです。	基本構想には、空港の賑わい創出に向けた整備内容について、民間の知見や提案を最大限活用するとともに、費用対効果や周辺施設との相乗効果も勘案して決定されることが不可欠である旨を記載しているところであり、こうした考えのもと、いただいたご意見も参考にしながら、ビルの整備が進められるよう取り組んでまいります。